

参議院議員 東京都選挙区

朝日健太郎

~函館港視察レポート~

東京から 誰もが輝ける社会へ

2018.5

「地域の特性を生かしたクルーズ船の受け入れを」

日本港湾協会主催による港湾関係者交流会 出席のため、函館市を訪れた。昨年の同交流 会は神戸港の開港150周年を記念した神戸市で 開催。本年は横浜港・長崎港と並び最も歴史 の長い開港159年の函館市函館港で開催された。

せっかくの函館市訪問なので、函館港のクルーズ船岸壁整備事業の進捗と併せて函館市の観光スポットを視察した。

函館港においては、現在、湾の入口に位置する港町ふ頭の岸壁にクルーズ船が着岸する。港町ふ頭にクルーズ船が着岸すると観光の中心地まで6.5km、車移動でも30分の時間を要してしまう。そこで、函館港では、現在、観光の中心地にほど近い若松埠頭にクルーズ船受入岸壁を整備している。本整備事業費は46億円、事業期間は平成28~30年で供用開始は本年中頃である。政府としては、港湾整備事業

THE PROPERTY OF THE PROPERTY O

の投資効果を重視しており、函館市において も、観光客増による経済効果は重要な視点で ある。



若松地区 旅客船岸壁の整備状況

今回の視察を振り返り印象的だったのは、 新たにクルーズ船受入岸壁整備がなされている若松埠頭が観光の中心地に非常に近く、また鉄道の函館駅も徒歩圏に位置しているという立地の良さである。港の近くに観光地や交通拠点があることで、クルーズ下船後の目的地までの移動負担が軽減され、滞在時間の拡大、乗客による観光消費も期待できる。これはクルーズ船受入れの際に大きな強みとなる。平成29年は寄港数31回であった函館港だが、若松埠頭の本整備事業により函館港へのクルーズ寄港数は大幅に増加することが予想される。函館港に入港した一隻当たりの観光地への消 費額は国内船で2000万円、外国船で3000万円 と計算されているため、クルーズ船周辺産業 への波及効果が期待されるところである。



出典:函館市客船入港実績一覧表

一方で、函館市においては、クルーズによる地域活性化に向けて、金森赤レンガ倉庫街、五稜郭、八幡坂などの観光資源の磨き上げも必須である。全国的にクルーズ受入れ体制が進展している中で、各港ともこれからはクルーズ船社に選んでもらうための競争が激化する。他の港と差別化を図るためには、クルーズ受入岸壁整備などのインフラ整備とともに、函館固有のソフト面の充実を一体的に推進していく必要がある。



観光スポット赤レンガ倉庫街

世界におけるヒト・モノの流動性は、2020年に向け高まる一方である。まだまだ様々な魅力ある函館に注目しながら、今後も国全体としてインバウンド4000万人を目指し、クルーズ船受入れのための港湾整備の強化とあわせて観光政策も強化していきたい。

朝日健太郎事務所作成 2018年5月

ご意見・ご質問等いつでもご連絡ください!

参議院議員 朝日健太郎事務所

〒100-8962東京都千代田区永田町2-1-1参議院議員会館620号室

TEL 03-6550-0620 FAX 03-6551-0620